

育児・家事に対する他者の常識的見解が 母親にもたらすプレッシャー

石井 佳世 (熊本県立大学)・石井 宏祐 (佐賀大学)

キーワード：母親 育児 常識的見解 プレッシャー

I 問題と目的

1. 育児に対する常識的見解と育児困難感

関係者、関係機関・団体が一体となって母子保健に関する取組を推進する国民運動計画である「健やか親子 21」が策定され、2015 年より第二次計画が開始されている。「健やか親子 21 (第二次)」では重点課題として「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」が設定されており、育児困難感をもつ親への支援は社会的に重要な事項である。育児困難感はその背景として障害や育てにくさ等子どもの要因、精神疾患や未熟なパーソナリティ、子育て体験のなさ等親の要因、夫婦間不和や社会的サポート不足、孤立感等サポート不足に関する要因、低収入や婚姻状況等生計背景要因があるといわれてきた (鈴木,2014、申・山田・森岡,2015、恒次・庄司・川井,2000 など)。さらに今日的な育児においてはこれらに加えて、世間の常識による重圧を背景とする育児困難感もあるのではないだろうか。

公共交通機関において、子どもが泣くことは親のしつけが不十分であり、親は子どもをきちんとしつけるべき、もしくは公共交通機関を利用するのを控えるべき、といった世間の意識や3歳までは母親が子どもの育児をするべきという3歳児神話等、育児にまつわる世間の常識的見解は散見される。これらは母親にとって育児の方針を決めるのに役立つこともあるかもしれないが、それがプレッシャーとなりストレスを感じたり、育児に悪い影響を及ぼしたりする可能性がある。中川 (2010) は女性イコール家庭という性別役割を内面化し行動することは、ストレスの発生につながり、大きな負担となることを指摘している。

2. 母親の家庭責任意識について

中川 (2010) は妻の家庭責任意識の強さが夫の家事・育児参加の少なさに関連していることを明らかにしている。中川 (2010) によって検討された妻の家庭責任意識は gatekeeping として海外で研究されてきた。母親の gatekeeping は父親が家庭の仕事に関与することを抑制しようとする母親の傾向のことである (Allen & Hawkins,1999)。母親が家庭領域の門番であるかのように、父親が子育てにかかわろうとすることをコントロールし、父親が家庭に関して関わることにアンビバレントな感情を抱くことが少なくないとされる

(加藤ら,2012)。

Allen & Hawkins (1999) は母親による gatekeeping を3つの側面から定義している。

第一に、母親役割の基準と責任である。家庭内の仕事について一定の基準を設けることで父親の関与を管理することである。「夫がやった家事の出来が悪いときは、しばしばやり直す」など、父親の家事・育児参加を低く見積もり、母親が家庭内労働の責任を父親に譲り渡すことに抵抗を持つ。

第二に、母親としてのアイデンティティと母親役割の承認である。母親が家庭内労働の責任者であることを周囲に期待されていると感じており、それが正当であるとの認識である。「うちのことがきちんとできている」という周囲の評価で、満足感や有能感を持つ傾向が高いと、家庭内労働を父親に任せることに罪悪感を覚え、父親の関与を抑制することにつながるだろう。

第三に、家庭内役割の分業であり、家庭内労働は女性の役割であると考えられる傾向である。母親が家事や育児は女性である自分の役割であると考えられる傾向が強いと、家庭内労働を父親に「させる」ことにためらいを覚えるだろう。

以上の3側面が強ければ、父親の家事・育児参加を母親がコントロールし、それを抑制することにつながると考えられる。

石井ら (2014) は未就学児を持つ父親及び母親を対象に質問紙調査を行い、母親のゲートキーピングの実態と父親の家事・育児参加との関連を検討している。その結果、先述した Allen & Hawkins (1999) の第一側面である、家事や育児に一定の基準を設け、夫がその基準に達していないと考える傾向が高いほど、夫が家事をしていないと認識している傾向が高いことが明らかとなった。

このように母親の家庭責任意識が強いと、母親が育児や家事を抱え込み、父親の育児・家事参加が少なくなることについては検討されているが、母親の家庭責任意識の高さは何に起因しているのであろうか。

中川 (2010) はその規定要因として妻の就業有無や年齢・学歴、夫婦の年齢差・学歴差、夫の家計負担比率、子どもの数、末子の年齢を考え、検討を行っている。その結果、妻自身の学歴が高く、就業している場合に妻の家庭責任意識は弱くなり、一方夫が妻より年齢が上であるほど、夫の家計負担割合が多いほど、末子年齢が大きいほど、強くなると考察している。

石井ら (2014) は母親自身の性役割観とゲートキーピングとの関連を検討しており、「女性は家事を楽しめるが、男性はそうではない」「多くの理由から、男性は女性よりも家事や育児に困難をきたす」という性差による家庭労働の苦手感の認識といった決定論的な性役割観が高いほど、「夫がやった家事の出来が悪いときは、しばしばやり直す」などのあきらめによるゲートキーピングが高くなることを示している。

3. 本研究の目的

以上、これまでの研究により母親の家庭責任意識には母親自身の性役割観や学歴や就業など母親の属性、年齢や学歴、稼ぎに関する夫婦の差などが影響することが示唆されているが（中川,2010, 石井ら,2014）、性役割に対する世間の意識も少なからず影響すると予測できる。中川（2010）は社会学的な先行研究をまとめて、妻の家庭責任意識は社会規範に基づくことを指摘しているが実証的な検討はなされていない。

そこで本研究では、未就学児を持つ母親を対象に、周囲の常識的見解に対する認識とその影響について検討することを目的とする。母親が家事や育児等について周囲や世間から感じる期待やプレッシャーにはどのようなものがあるのか、及びそれによる自分の家事や育児への影響についてどのように認識しているのかを、自由記述の回答をもとに検討する。

II 方法

乳幼児を持つ母親を対象に、質問紙調査を行った。調査協力者、調査時期、調査方法、質問紙の構成については以下の通りである。

1. 調査協力者

対象は九州地方に在住する乳幼児を持つ母親である。子育て支援施設（4施設）に質問紙の配布と回収を依頼し、子育て支援施設を訪れた母親に質問紙への回答を依頼した。回答は無記名で行われた。

2. 調査時期

2016年2月。

3. 調査方法

個別自記入形式の質問紙調査で実施された。回答依頼時に文書にて説明合意を得た。

文書には、質問紙の回答は質問項目を見た上で判断できること、回答を途中で中止することができること、データは厳重に管理され本研究以外の目的には使用しないこと、回答は匿名により個人が特定されないこと、研究結果は他の研究協力者の個人情報にかかわる部分を除いて開示が可能なこと、研究の成果は学会や学術雑誌およびデータベース等で公表されることがあるが、その際には個人が特定出来ないように処理をした上で発表することを記載し、同意を得た場合のみ質問紙への回答を求めた。

4. 質問紙の構成

(1) フェイスシート

年齢、職業、勤務形態（専業主婦、正職員、パートタイマー、その他）、結婚期間、同

居家族に関して記入を求めた。

(2) 周囲の性役割態度への認識 (15 項目) (本論文では分析対象外)

(3) Maternal Gatekeeping Scale (18 項目) (本論文では分析対象外)

(4) 自由記述

家事や育児等について周囲や世間から感じる期待やプレッシャーに関するエピソードを尋ねた。また、その経験によって自分の家事や育児にどのように影響が及んだと思うかについても尋ねた。

Ⅲ 結果と考察

1. 調査協力者の属性

回答者 195 名中、回答に不備があったものを除き 169 名を対象とした。対象者の平均年齢は 33.10 歳 (24 歳～43 歳、標準偏差 4.74) であった。

次に、母親の勤務形態は専業主婦 101 名、正職員 38 名、パートタイマー 26 名であり、専業主婦が多かった。

2. 分析方法

未就学児を持つ母親の自由記述のデータから、家事や育児に関する世間からの期待やプレッシャーについてのエピソードと、それらによる影響の構造を整理し、より正確に理解するため、KJ 法を参考にした分析を行った。

KJ 法とは文化人類学者である川喜田二郎によって創始されたデータ集約に関する一つの技法である。KJ 法とは川喜田 (1967) によると、(1) 討論における発言のエッセンスを、「1 行見出し」と呼ばれる見出しに要約しカードに書き込み、(2) そのカードを分類し、グループ編成を行い、(3) 編成されたグループにさらに見出しをつけ、(4) できたグループ同士を空間的に配置し、関係性を矢印などを用いて示す、という方法である。

本研究では、データの集約のために KJ 法を参考にするので、(1) から (3) までを採用した。Table 1 は安藤 (2004) を基に整理した分析手順である。

なお、分析は筆頭及び連名著者が合同で行った。

Table 1 KJ法を参考にした方法（安藤（2004）を基に筆者らが作成）

①カード化

一つの意味のある文章のまとまりを1単位として、カードに短く書き出す。内容が分かる程度に短い文章や単語で書けばよい。長く話していることでも1つの内容としてまとめられるなら1枚のカードになるし、短くても複数のことに言及している場合は複数枚のカードになる。

②グループを作る

次にカードを大きな紙の上ですべて広げて、似ているもの同士を探す。似ているカードを同じ場所に集めて、少しずつ小さなグループを作っていく。どのグループに分類すればよいかわからないカードがあった場合には、無理にどこかのグループに入れてしまわず、そのまましておく。

③見出しをつける

グループ分けが終わったら、一つ一つのグループに見出しをつける。同じグループとして集められたカードをもう一度読んでみて、共通点は何かを探す。それを簡潔な一言で表して、そのグループの見出しとする。見出しをつける中で、最初に分類したグループに属さないと感じたカードがあれば、分類し直したり、独立したカードにしたりしておく。

④繰り返す

①～③の手順をこれ以上はまとめられないというところまで繰り返す。

3. 周囲からの期待やプレッシャーに関するエピソード（自由記述）の検討

前節の方法によって、家事・育児について周囲から感じる期待やプレッシャーを感じたエピソードに関する自由記述の内容をカード化したところ、96枚のカードが得られた。続いて35個の小グループ、17個の中グループ、5個の大グループにグループ編成がなされた（Table 2）。まず、全体の構成を説明し、次に各グループについて述べる。以下、大グループは【】、中グループは〈〉、小グループは《》、最小単位のカードは「」で示す。

Table 2 家事・育児について周囲から感じる期待やプレッシャーの分類(数値はカード数)

大グループ	中グループ	小グループ	数値
女性として人権が軽んじられる経験 31	子どものために自分を犠牲にすることが当たり前という常識	7	7
	家事・育児に関する伝統的性役割観の押し付け	15	7
		家事は妻がすべき	4
		もっと妻や母としての仕事をするよう非難される	3
		女性は家を守るべき	3
		働くことを批判される	3
	女性蔑視	1	2
	夫舐戻	3	1
	ワークライフバランスへの口出し	3	3
		仕事より子育てを優先することへの批判	2
家族文化の強制	2	1	
子育てへの介入 31	理想の子育て観のプレッシャー	25	1
		長男の嫁としての苦勞	1
		子育て観を押し付けられる	13
		3歳児神話	4
		しつけへの口出し	4
	他の子どもとの比較	2	2
		保育園を勧められる	2
		子育ては夫婦で協力すべき	1
		地域の役割を求められる	1
		過度な思いやり	2
専門性へのいやみ	2	2	
子育ての責任に関するプレッシャー 17	子育てについて罪悪感を喚起される経験	12	6
		子どもの発達への心配	3
	子どもの将来への心配	1	
	問題行動は育て方のせい	2	
	子どもを守れというプレッシャー	3	3
理想像とのギャップ	2	2	
家族構成への介入 14	子どもを持つことに関わるプレッシャー	11	5
		子どもをもっと	2
		子どもはまだか	2
	子どもの数の押し付け	2	
	子どもの性別への期待	2	
無責任発言	3	3	
理解されない経験 4	理解されない経験	4	2
		忙しさへの無理解	2
		がんばりへの無理解	1
			1
			1

子育て中の母親の自由記述から、家事・育児に際し周囲の人や世間から感じた常識に関して、【女性として人権が軽んじられる経験】【子育てへの介入】【家族構成への介入】【子育ての責任に関するプレッシャー】【理解されない経験】という5つの大グループが見出された。

【女性として人権が軽んじられる経験】は〈子どものために自分を犠牲にすることが当たり前という常識〉〈家事・育児に関する伝統的性役割観の押し付け〉〈女性蔑視〉〈夫舐戻〉〈ワークライフバランスへの口出し〉〈家族文化の強制〉の6つの中グループから成る。【子育てへの介入】は〈理想の子育て観のプレッシャー〉〈他の子どもとの比較〉〈過度な思いやり〉〈専門性へのいやみ〉の4つの中グループから成る。【家族構成への介入】は〈子どもを持つことに関わるプレッシャー〉〈無責任発言〉の2つの中グループから成る。【子育ての責任に関するプレッシャー】は〈子育てについて罪悪感を喚起される経験〉〈子どもを守れというプレッシャー〉〈理想像とのギャップ〉の3つの中グループから成る。【理解されない経験】も認識されている。

【女性として人権が軽んじられる経験】

〈こどものために自分を犠牲にすることが当たり前という常識〉として、夫の母親や自分の母親から、仕事や自分の時間を持つことより、こどもを第一に考えろという《こどもを最優先すべき》というプレッシャーがあったと感じていた。また、ママ友（こどもの母親同士という共通点から形成された友人）同士の会話においてそのようなプレッシャーを感じた人もいた。

〈家事・育児に関する伝統的性役割観の押し付け〉は《家事は妻がすべき》《もっと妻や母としての仕事をするよう非難される》《女性は家を守るべき》《働くことへの批判》《伝統的性役割観》の5個に分類された。主に夫の母親や家族から、たとえこどもが幼くても、夫が休憩していても《家事は妻がすべき》とのプレッシャーを受け、夫の実家でも自分が家事をしているという意見があった。また、夫の母親から料理など《もっと妻や母としての仕事をするように非難される》こと、「こどもが小さいうちは仕事はせず、家にいるべき」「なんでそんなに働くの？いつまで働くの？などと親戚の集まりの場で言われた」など《働くことへの批判》、「こどもが産まれたらしばらくは専業主婦になってほしい」など《伝統的性役割観》の押し付けなどにプレッシャーを感じていた。「家にいて家庭を守ってほしい」など《女性は家を守るべき》との意見は夫や夫の家族、夫の上司の家族に言われており、専業主婦になる決意を固めたとポジティブに認識している経験も記述された。

〈女性蔑視〉は仕事選択に関しての差別的発言を夫の父親から受けたというものであった。

〈夫最良〉は夫の母親から感じたプレッシャーで、夫の母が自分の息子を優先したり、自分の息子のために家事などをしたりしてほしいという要望であった。

〈家族文化の強制〉としてこどものお祝い事の仕方など《家族文化の強制》、《長男の嫁としての苦勞》があるとの意見も記述されていた。

〈ワークライフバランスへの口出し〉は職場から《こどもをさらに産むことの非難》や《仕事より子育てを優先することへの批判》を受けたとのエピソードがあった。

【子育てへの介入】

〈理想の子育て観のプレッシャー〉は《子育て観の押し付け》《3歳児神話》《しつけへの口出し》《保育園を勧められる》《子育ては夫婦で協力すべき》《地域の役割を求められる》の6つの小グループから成る。「母乳で育てるべき」「規則正しい生活をして本をたくさん読み聞かせないといけない」「自分の子育てはこうだった」など主に夫の母親や自分の母親から《子育て観の押し付け》を受ける、3歳までは母親が家庭で子育てをするべきという《3歳児神話》、食事やトイレトレーニング、服装などについて《しつけへの口出し》をされるなど、理想の子育てを押し付けられ、プレッシャーを感じるエピソードが多く記述された。

夫の両親から〈他のこどもとの比較〉をされ、プレッシャーに感じたとのエピソードも記述された。

〈過剰な思いやり〉は助言が親切心からだとわかってはいるが、過剰だったため迷惑に感じた経験が述べられている。

〈専門性へのいやみ〉として、母親自身がこどもに関わる職業等、専門家であったゆえに完璧な育児を求められることへのプレッシャーについても記述されていた。

【子育ての責任に関するプレッシャー】

〈子育てについて罪悪感を喚起される経験〉は《こどもへの同情》《こどもの発達の心配》《こどもの将来の心配》《問題行動は育て方のせい》の4つの小グループから成る。「(こどもの皮膚病について)『かわいそうに』『早く治さないと』などといわれて落ち込んだ」とか「『こんなに人が多いところに赤ちゃんを連れてきてかわいそう』といわれた」など、《こどもへの同情》が母親にとってプレッシャーになっていることが示された。これは主に知らぬ人や親戚など関係がそれほど密でない人から受けるという記述が多かった。また、自分や夫の母親から「離乳やオムツなど育児書どおりの月齢でできないと『発育に問題があるのでは?』とすぐに病院への受診をすすめられた」など《こどもの発達の心配》をされることにより落ち込むという記述も見られた。「何気なく言われる『三つ子の魂百まで』という言葉とか『将来どんな子になるんだろうね』とかプレッシャーに感じたことがある」と、何気ない会話の中でも《こどもの将来の心配》に関するプレッシャーを受けたと感じた体験もあった。公共交通機関内でのこどものいたずらや保育園での問題行動を母親がしつけるように要請される経験をとおして《問題行動は育て方のせい》とのプレッシャーを受けたことが示された。

また、夫や自分の親からこどもの怪我や重症の病気は母親の責任であるという〈こどもを守れというプレッシャー〉を受けたエピソードも記述された。

〈理想像とのギャップ〉として、マスメディアの情報やママ友の子育てにおける理想像と自分を比べることがプレッシャーになっていることがうかがえた。

【家族構成への介入】

〈こどもを持つことに関わるプレッシャー〉は《こどもをもっと》《こどもはまだか》《こどもの数の押し付け》《こどもの性別への期待》の4つの小グループから成る。「兄弟がいなくてかわいそう」「二人目まだ?」「一人ではかわいそう、早いほうがいいよ」など《こどもをもっと》産むようにというプレッシャーを感じた経験や、「早く孫を生んでほしい」など《こどもはまだか》というプレッシャー、「こどもは3人は作りなさい」「男の子を2人は生むように」など《こどもの数の押し付け》「自分(母親)のためにも娘はいたほうがいい」など《こどもの性別への期待》によるプレッシャーの経験などが記述された。対

象は夫の母親など夫の家族から受けたものが多かった。

〈無責任発言〉は出産やこどもの数について見知らぬ人や特に近しくない親戚に無責任に助言されたとの記述があった。

【理解されない経験】

〈理解されない経験〉は《忙しさへの無理解》《がんばりへの無理解》《子育て不安への無理解》から3つの小グループから成る。共働きの家事育児などで忙しいのに、夫の両親から孫を連れてくるよう要求されるなど《忙しさへの無理解》によりさらに忙しくなるという悪循環を感じていることがうかがえた。また夫から「家事と育児と仕事と、どれかひとつでもおろそかになってしまったときに『だらだらしている』と言われたときは、すべてを完璧にしないといけないのかな？としんどくなった」という《がんばりへの無理解》「母親になって、初めての子育てで右往左往しているときに、笑顔でいられない私に対して『母親がそんな顔しているとこどもがどう思うと思っているんだ』と言われた」という《子育て不安への無理解》など、夫の理解のなさがプレッシャーになる様子が記述された。

4. 期待やプレッシャーによる家事や育児への影響（自由記述）の検討

周囲から感じる期待やプレッシャーが家事・育児に及ぼす影響についての自由記述の内容をカード化したところ、67枚のカードが得られた。続いて44個の小グループ、17個の中グループ、7個の大グループにグループ編成がなされた（Table 3）。まず、全体の構成を説明し、次に各グループについて述べる。以下、大グループは【】、中グループは〈〉、小グループは《》、最小単位のカードは「」で示す。

Table 3 家事・育児について周囲から感じる期待やプレッシャーによる影響の分類
(数値はカード数)

大グループ	中グループ	小グループ		
家族関係への悪影響	子育てへの悪影響	6	ストレスで子育てに悪影響があった	1
			自分の子育てに関して周りの目が気になった	2
			周りの目を気にしてこどもにプレッシャーをかけた	3
	夫婦関係への悪影響	6	夫とのケンカが増えた	2
			夫に感情を出さなくなった	1
			夫への評価が下がった	1
自分のままでいられる工夫	子どもをさらにもつことへの躊躇	2	夫への不満が増した	2
	気にしないように意図した	2	子どもをさらにもつことへの躊躇	2
		5	気にしないようにしている	1
	自分の意思を尊重した	5	時代が違うと考えた	3
			聞き流している	1
		5	自分の考えに従った	3
我慢	夫の実家との距離を工夫した	2	自分の考えを改めて確認した	2
	1	夫の実家との距離を工夫した	2	
	1	専門家に相談し気にしないようにした	1	
	5	専門家に相談し気にしないようにした	1	
	5	やむを得ず周りに合わせた	5	
	4	やむを得ず周りに合わせた	5	
コミュニケーションの重視	夫とコミュニケーションした	6	ネガティブな感情になった	4
	話し合いで解決した	6	夫と話し合っ解決した	2
		1	夫の実家に対する不満を夫に話した	4
	1	話し合いで解決した	1	
周りとの折り合い	周りに能動的に合わせた	5	話し合いで解決した	1
	抵抗があったが受け入れた	5	周りの意見にあわせ結果的に良かった	2
		1	周りの意見を取り入れた	2
	1	周りをみならい結果的に良かった	1	
こどもとの関わりの重視	こどもとの時間を意識的に大事にしている	5	抵抗があったが受け入れた	1
	夫とこどもの間を取り持った	1	こどもを優先しながら仕事と子育てを両立している	1
		1	こどもとの時間を大切にしている	4
	1	夫とこどもの間を取り持った	1	
その他	特に影響を受けなかった	11	あまり影響を受けていない	1
	夫を後回しにした	1	気にせずにすんだ	1
		1	申し訳ないと思いつつ特に影響されなかった	1
		8	特になし	8
	1	夫を後回しにした	1	

子育て中の母親の自由記述から、家事・育児に際し周囲の人や世間から感じた常識から受けた影響に関して、【家族への悪影響】【自分のままでいられる工夫】【我慢】【コミュニケーションの重視】【周りとの折り合い】【こどもとの関わりの重視】【その他】という7つの大グループが見出された。

【家族関係への悪影響】は〈子育てへの悪影響〉〈夫婦関係への悪影響〉〈子どもをさらにもつことへの躊躇〉の3つの中グループから成る。【自分のままでいられる工夫】は〈気にしないように意図した〉〈自分の意思を尊重した〉〈夫の実家との距離を工夫した〉〈専門家に相談し気にしないようにした〉の5つの中グループから成る。【我慢】は〈やむを得ず周りに合わせた〉〈ネガティブな感情になった〉の2つ、【コミュニケーションの重視】は〈夫とコミュニケーションした〉〈話し合いで解決する〉の2つ、【周りとの折り合い】は〈周りとの能動的にあわせた〉〈抵抗があったが受け入れた〉と積極的にせよ消極的にせよ周りの意見を取り入れる中グループ2つ、【こどもとの関わりの重視】は〈こどもとの時間を意識的に大事にしている〉〈夫とこどもの間を取り持った〉の2つの中グループから成り、【その他】として〈特に影響を受けなかった〉〈夫を後回しにした〉が残った。

【家族関係への悪影響】

〈子育てへの悪影響〉は《ストレスで子育てに悪影響があった》《自分の子育てに関して周りの目が気になった》《周りの目を気にしてこどもにプレッシャーをかけた》の3つの小グループから成る。母親は「義理の（夫の）両親に言われたことでストレスを感じ・・・ストレスのせいでこどもへ強く当たってしまった」と《ストレスで子育てに悪影響があった》こと、「こどもより夫、夫の親にどう思われるか気にしながらこどもに接するようになった」と《自分の子育てに関して周りの目が気になった》こと、「周囲の目を必要以上に気にし、完璧でないといけない、自分もこどもも恥をかくと思い、こどもが外で少しでも変なこと（大きな声、走り回る）をすると帰宅後厳しくしかる、たたくようになりました。」など《周りの目を気にしてこどもにプレッシャーをかけた》ことを体験していた。周囲はこどものために思い助言等するとしてもそのせいで母親がプレッシャーやストレスを感じ、逆にこどもにとって悪影響になる可能性が示唆された。

〈夫婦関係への悪影響〉は《夫とのけんかが増えた》《夫に感情を出さなくなった》《夫への不満が増した》《夫への評価が下がった》の4つの小グループから成る。《夫とのけんかが増えた》は夫の両親に言われたことがストレスになりそれが原因でけんかが増えたと感じていたり、夫が家事は妻がすべきと考えていることに対してけんかや話し合いを重ねたりしたという体験があった。夫が自分（妻）の子育て不安を理解してくれず《夫に感情を出さなくなった》り、家事・育児・仕事等のがんばりを理解してくれず《夫への不満が増した》りしたことも経験されていた。また、夫の親の理解のない行動に対して、夫が頼りにならないと《夫への評価が下がった》という体験もあった。

第一子の子育てに際し、自分の母親から子育て観を押し付けられたり他のこどもと比較されたりした経験から「もし二人目を出産するときに里帰り出産をしないといけないのではと考えるとううつでこどもは一人でよいと考えるようになりました」という記述や、「（第一子の育児をほとんど自分が担う中で）夫や周囲の“二人目は”という気持ちを感じるが増え、二人目について毎日悩んでいる。先の見通しが立たずにいる。」という記述など、〈こどもをさらに持つことへの躊躇〉が経験されていた。

【自分のままでいられる工夫】

〈気にしないように意図した〉は《気にしないようにしている》《時代が違ふと考えた》《聞き流している》の3つの小グループから構成される。母乳育児でないことに関して「（こどもが）ミルクでも健康に育っていたので周りの言葉を気にしないようにしました」と《気にしないようにしている》との記述があった。また夫の母親からの意見に対して《時代と違ふと考えた》《聞き流している》との対応をとっている様子が記述された。

〈自分の意思を尊重した〉は《自分の考えに従った》《自分の考えを改めて確認した》の2つの小グループから成る。育児に対する考え方やこどもの病気への対処法、仕事復帰に

ついでなど自分の考えに反することを言われても迷ったり夫と話し合ったりしながら《自分の考えに従った》という対応が記述された。また、マスメディアや見知らぬ人の子育て観やしつけに関する意見を受けて《自分の考えを改めて確認した》という経験があった。

夫の母親からの家族文化の強制や家事は妻がすべきというプレッシャーに対し、夫に仲介を任せるなど〈夫の実家との距離を工夫した〉体験が見られた。

こどもの発達の心配に関する意見に対し、〈専門家に相談し気にしないようにした〉という対応があった。

【我慢】

夫の家族や職場で否定されそうな自身の家事・育児に対する考えややり方は話さないようにしたり、夫の実家での家事の負担を覚悟したりと〈やむを得ず周りに合わせた〉ことを経験していた。

また嫌な気分になったり、落ち込んだり、プレッシャーで気が休まらなかったりと《ネガティブな感情になった》体験があった。

【コミュニケーションの重視】

〈夫とコミュニケーションした〉は《夫と話し合って解決した》《夫の実家に対する不満を夫に話した》の2つの小グループから構成された。自分の母親や親戚からの意見に対して子育てやこどものしつけの方針について《夫と話し合って解決した》体験が見られた。また、夫の親からのプレッシャーに関して「イライラしたが、どうしようもないことなので夫に言ってスッキリさせた」「夫に愚痴った」と《夫の実家に対する不満を夫に話した》ことで解消しようとする体験があった。

年配のママ友の子育て観の押し付けに対して、〈話し合いで解決する〉という体験が見られた。

【周りとは折り合った】

〈周りに能動的に合わせた〉は《周りの意見に合わせて結果的によかった》《周りの意見を取り入れた》《周りをみならい結果的によかった》の3つの小グループから構成された。周囲の意見を取り入れて子育てを行った結果、「今となってはよかったのかなと思う」など《周りの意見に合わせて結果的によかった》、や《周りの意見を取り入れた》、ママ友の子育ての様子を見て取り入れ、《周りをみならい結果的によかった》など周囲の常識や意見を積極的に取り入れる経験が見られた。

また、子育てのやり方に関して周囲の意見を〈抵抗があったが受け入れた〉経験もあった。

【こどもとの関わりの重視】

〈こどもとの時間を意識的に大事にしている〉は《こどもを優先しながら仕事と子育てを両立している》《こどもとの時間を大切にしている》の2つの小グループから成る。「何があっても自分は仕事よりこどもが一番という気持ちだけは忘れず、できるだけ両立しようがんばっている」という《こどもを優先しながら仕事と子育てを両立している》体験や、「こどもと過ごす時間を増やす」、「日中はとにかくこどもにつきあう」「休みの日はなるべくたくさん話しかけたり、遊んだりするように意識しました」など《こどもとの時間を大切にしている》体験が記述されていた。

また、「子育ては夫婦で協力しあってするべき」との周囲の意見に対して、〈夫とこどもの間を取り持った〉という体験もあった。

【その他】

〈特に影響を受けなかった〉は《あまり影響を受けていない》《気にせずすんだ》《申し訳ないと思いつつ特に影響されなかった》《特になし》の4つの小グループから成る。自分自身の考えを重視し《あまり影響を受けていない》と感じたり、自分自身の体験から自分の子育ての方針に自信があり周囲の意見を《気にせずすんだ》と思ったりする体験が記述された。また、周囲に対して《申し訳ないと思いつつ特に影響されなかった》との記述や周囲の意見により影響されたことは《特になし》との記述が見られた。

「こどもを最優先すべき」という自分の母親からの意見に対し、それを受け入れた結果〈夫を後回しにした〉という体験も記述された。

IV 結語

1. 周囲からの期待やプレッシャーに関するエピソード

母親が家事や育児等について周囲や世間から感じる期待やプレッシャーにはどのようなものがあるのか、自由記述の回答をもとに検討を行った結果、【女性として人権が軽んじられる経験】【子育てへの介入】【子育ての責任に関するプレッシャー】【家族構成への介入】【理解されない経験】という5つの大グループに分類された。

伝統的性役割観に基づく【女性として人権が軽んじられる経験】や子育てやこどもを持つことに関する常識から受ける【子育てへの介入】【子育ての責任に関するプレッシャー】【家族構成への介入】、周囲が自身の経験や常識からの要求を母親にすることで母親が理解されていないと感じる【理解されない経験】など、母親は周囲の人や世間が持つ様々な常識からプレッシャーを受けていることが明らかとなった。周囲の人にとっては母親やこどものことを思っている常識的な発言であっても、母親にとっては押し付けに思えたり、家事・育児の大変さをわかってもらえないという思いにつながったりすることがあることが示唆された。

また、直接言われる助言はもちろんのこと、マスメディアによる情報や同じように子どもを持つ母親の振る舞いなどを自分自身の家事・育児と比較してプレッシャーを感じることもあることが示された。

2. 周囲の期待やプレッシャーによる家事や育児への影響

周囲や世間からの期待やプレッシャーの影響について母親がどのように感じているのか、検討を行った結果、【家族関係への悪影響】【自分のままでいられる工夫】【我慢】【コミュニケーションの重視】【周りとの折り合い】【こどもとの関わりの重視】【その他】の7つの大グループに分類された。

世間の常識をふまえた意見を受けてそれを自分の家事・育児の方針に取り入れようとする【周りとの折り合い】【こどもとの関わりの重視】、家事・育児に関する周囲や世間の意見を受けて、主に夫と、自分たちの意見を話し合うことで再検討する【コミュニケーションの重視】、周囲の意見に関してネガティブな感情を持ったり、自分を抑えて同調する【我慢】、周囲の意見を受け入れて子育てをしようとするがそれが過剰になる〈子育てへの悪影響〉や周囲のプレッシャーを受けてストレスがたまった結果〈夫婦関係へ悪影響〉を及ぼすといった【家族関係への悪影響】、周囲の意見を気にしないようにし【自分のままでいられる工夫】をするなど、様々な影響が体験されていることが明らかとなった。また、【その他】として特に影響を受けなかったとの記述もあった。

周囲の意見を受け入れて結果的によかったと感じる体験もされていたが、周囲のプレッシャーにより、子どもへの過剰な叱責など子育てへの悪影響が及ぶなど家族関係に悪影響があったり、また母親自身がプレッシャーで気が休まらないなどネガティブな感情を持ったりする危険性も示された。

3. 展望

本研究では、未就学児を持つ母親が、周囲の人や世間から感じる家事・育児に関する期待やプレッシャーのエピソードについて検討したが、期待やプレッシャーを具体的にどのような関係の他者から感じたのかについては分析を行っていない。しかし、同じ内容のことを言われたり目にしたりしたとしても、関係性によって捉え方や影響は異なるであろう。エピソードの対象別の分析及び考察が必要であると考えられる。また、それらの経験と影響を対応させた検討を行っていく必要もあろう。

付記

本論文は2015年度鹿児島市男女共同参画センター調査研究支援事業で行った研究の一部を加筆・修正したものです。研究にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- Allen, S.M. & Hawkins, A.J. 1999 Maternal Gatekeeping: Mothers' beliefs and behaviors that inhibit greater father involvement in family work. *Journal of Marriage and Family*, 61, 199-212.
- 安藤香織 .2004. データを整理する . 無藤隆・やまだようこ・南博文ら編 . 質的心理学—創造的に活用するコツ—. 192-204. 新曜社 .
- 石井佳世・石井宏祐・丸田なつき .2014. 父親の育児・家事参加に影響する要因の検討—保育園児の母親及び父親を対象として—. 鹿児島市男女共同参画センター調査研究支援事業報告書 .
- 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司 .2012. 母親の gatekeeping に関する研究動向と課題—夫婦ペアレンティングの理解のために—. 東北大学大学院教育学研究科研究年報 ,61,1,109-126.
- 川喜田二郎 .1967. 発想法—創造性開発のために—. 中公新書 .
- 中川まり .2010. 子育て期における妻の家庭責任意識と夫の育児・家事参加 . 家族社会学研究 ,22,2,201-212.
- 申沙羅・山田・和子・森岡郁晴 .2015. 生後2～3か月児がいる母親の育児困難感とその関連要因日本看護研究学会雑誌 ,38(5),33-40
- 鈴木淳子 .1994. 平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SERA-S) の作成 . 心理学研究 ,65,1,34-41.
- 鈴木浩子 .2014. 母親の「育児困難」の概念分析 . 日本保健科学学会誌 ,17 (3),127-134.
- 恒次欽也・庄司順一・川井尚 .2000. いわゆる育児不安に関する調査研究 (2) —最新版質問紙による「育児困難感」の規定要因に関する研究—. 愛知教育大学研究報告 ,49(教育科学編) ,125-132.